

第三十三回

えん

# 雲舟の会

平成二十五年十月二日(水) 午後七時開演  
於 国立劇場小劇場

「菊の露」 「珠取り」

舞／四世家元 神崎 えん  
歌・三絃／富山 清琴



# 霧の会

地唄舞公演

「菊の露」

「珠取り」

神崎えんは、東京の地唄舞の名手であった父秀珠に舞を習うと同時にもう一人の師匠をもった。すなわち武原はん。

しかしこの二人の師匠の芸風はまったく対照的だった。

秀珠の抑制された舞に対して武原はんの艶治な美しさ。

二人の芸風が神崎えんのものになり、一つになった。

— 渡辺保 (『ダンスマガジン』2013年7月号) —

神崎えん様へ

頼るべき大きな存在をなくされて、

しかしいよいよえんさんの色を

存分に発揮する時がきたのだと、

非力な友の一人として静かにささやかに、

お支え申し上げますことを、ここに誓います。

おおらかにいこうね。

— 阿川佐和子 —

## 舞.....神崎えん

四世家元神崎えんは、昭和10年に神崎恵舞が創流した舞の流派「神崎流」家元を、二世、三世を経て平成11年に襲名。昭和27年より毎年開催し平成25年に62回目を迎える「神崎流地唄舞研究会」を第55回から主催。昭和53年より定例公演「霧の会」を毎年開催、今年10月に33回目を迎える。平成11年に日本舞踊批評家協会新人賞を受賞。平成23年には、再び日本文化会館にて公演。紀尾井ホール主催公演、国立劇場主催「舞の会」等、各種公演に出演。

### 舞について

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は14世紀に現在の様式の礎を確立したといわれる「能」の動きにも見られるように、舞台を廻って旋回する動きを指します。「踊」は17世紀に興った「歌舞伎」を基本として、陽気に解放的に跳躍する動きを呼びます。この「舞」を座敷で地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」です。関西を中心に発達しました。特徴としては少ない動きとゆったりとしたテンポで、その「こころ」を表現することが挙げられます。神崎流は、初代が大阪から東京に移り創流、その後四代目の神崎えんまで引き継がれた東京で生まれたただ一つの地唄舞の流儀です。

## 地唄.....富山清琴

三弦・箏・胡弓演奏の第一人者。幼少から父の富山清翁(人間国宝・文化功労者・芸術院会員)に古典的な方法で教育を受ける。東京芸術大学卒。文化庁芸術祭賞(昭和60年、平成元年、平成3年)、平成9年には清栄会奨励賞を受賞。平成12年に富山清隆から富山清琴を襲名、平成16年日本芸術院賞受賞、平成21年重要無形文化財保持者(人間国宝)認定。平成23年紫綬褒章を受章。

### 地唄について

江戸時代の三味線音楽の発達には目覚ましいものがありました。三味線音楽の中でも、個人の住宅の座敷で演奏されてきたものが「地唄」です。特定の観客に向けていわゆるサロンで演奏される室内楽と申せましょうか、地唄は、畳、木と紙の障子、土壁の部屋の中で、暮夜には、またたく蠟燭の灯影で、演奏されました。主に関西を中心に発達、演奏のスタイルとしては、演奏者が一人で唄い、三味線を弾く弾き唄いの形が普通です。琴、胡弓の伴奏が入る場合もあります。

平成25年10月2日(水)

19時開演(18時半開場)

国立劇場小劇場

前売開始 7月10日(水)

チケット料金 7000円(全席自由)

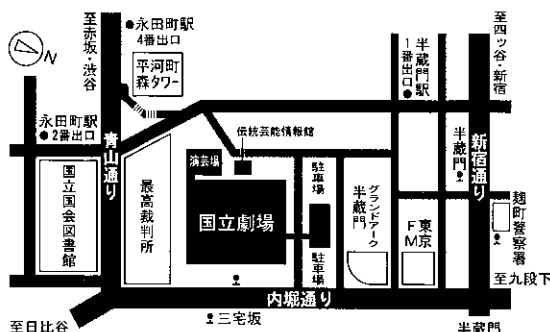
チケット取扱 神崎流 03-3408-1671

jiutamaikanzaki@yahoo.co.jp

国立劇場チケット売場(窓口販売のみ)

お問い合わせ 神崎流 03-3408-1671

神崎流HP <http://www011.upp.so-net.ne.jp/jiutamaikanzaki/>



- 地下鉄 半蔵門線(半蔵門駅)1番出口徒歩5分
- 有楽町線・半蔵門線・南北線(永田町駅)4番出口徒歩8分・2番出口徒歩10分
- 都バス 都03(晴海埠頭-四ツ谷駅前)三宅坂徒歩1分
- 宿75(新宿駅西口-河田町-四ツ谷駅前-三宅坂)三宅坂徒歩1分
- 駐車場完備